



ARTIST NO KOSODATE? / Interview / No.02

ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 40代

03 性別 男性

04 子どもの数 1人

05 子どもの年齢 5歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

写真撮影と、映像制作と、大学の非常勤講師をしています。ただ写真撮影と映像制作は、商工会議所や市役所といった関係団体と一緒に協力して、中小企業をサポートし地域を復興させるというかたちで仕事をしています。

その仕事はご自分で探されたのですか？それともお声がかかって始めたのですか？

今住んでいる場所はもともと縁もゆかりもなかったもので、自分から関係を作っていこうと思って、市のプロジェクトとか色んなものに参加するようにしたんです。そのつながりからお声がけいただきました。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？☒ はい ☐ いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

☒ 保育園 ☒ 通常保育 ☐ 一時保育・ ☐ 認可 ☒ 認可外 ☒ 幼稚園 ☐ ファミリーサポートセンター
☐ その他

保育園は1歳から。幼稚園は3歳（年少）から。

今は保育園と幼稚園両方通わせていて、幼稚園の降園後に妻の職場の院内保育へ行かせています。保育園は妻の仕事の間子どもを預かってくれるので、妻の仕事が休みのときは保育園には行きません。朝幼稚園に行って帰ってくるのは14時頃で、幼稚園バスで自宅の前まで帰ってきて妻が面倒を見ます。妻の出勤日は、幼稚園バスでアトリエ前まで帰ってきて、そこから僕が保育園に連れていきます。僕が保育園に連れていけない時は、幼稚園で18時まで預かってもらいます。少し複雑なので、妻の仕事のシフトが決まると、夫婦で子どもの送り迎えを話し合っています。

そもそも、子どもを幼稚園バスの降車場所から保育園へ預けやすいような場所を探して、今のアトリエへ引っ越しました。元のアトリエの場所では、幼稚園の後、保育園に預けられない。それに、前のアトリエは葉山にあって、すごく静かでいい所だったのですが、この時代に仙人みたいな暮らしをしていたらダメだなと思って（笑）。人と接したり、情報に触れたりする機会を求めて、妻の職場に近くて商店街の中で人通りも多い今の場所に移りました。そこでアトリエ兼アーティスト・ラン・スペースを立ち上げました。月に6日ほどしか開廊していませんが、スペースができたのでやれることが広がりました。

ご両親はお近くにいらっしゃいますか？

夫婦両方とも出身が関西なので、親は近くにいません。

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

- ☐ 保育園や学校に行っている間 ☐ 睡眠時間を削る ☒ 子どもが寝てから ☐ 早朝 ☐ 実家・親に預ける
☐ 配偶者に預ける ☐ 仕事の合間 ☐ 仕事が休みの日 ☐ 捻出できない ☐ その他

朝3時に起きて、6時ぐらいまでアトリエで仕事し、いったん家に帰って子どもを起こします。その後、幼稚園や保育園に行く身支度をさせ、7時に送り出した後、アトリエに戻って仕事をしています。

**10 一日のうちで、①育児にかかる時間、②作家活動にかかる時間、③作家活動以外の仕事にかかる時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？
およその時間を教えてください。**

- ① 育児：0時間 → 4時間
② 作家：6時間 → 6時間
③ 仕事：5時間 → 1～3時間

子どもができると制作時間が減るので、一人でできる仕事に絞ることにし、業務提携していた他の仕事を減らしました。アーティスト・ラン・スペースに関する仕事量が思いのほか多くて、最近はその仕事全体の3分の1はあります。ここは地域という素材を生かしたアートプロジェクトをしていこうと思って作った場所で、年間3回展覧会を開催しており、ここでのプロジェクト自体も自分の作品だと思っています。

11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

変わりました。変えなければやってられなかったですね。
制作は家ではやらないです。一人で集中できるアトリエです。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

子育てするなかで、子ども向けの本や童話、アニメなどを見る機会があって、それが作品に影響することはあります。きかんしゃトーマスをモチーフにしたりね。

メディアとして、写真や映像を使うのはずっとは変わらないですけど。

あと、子どもという自分の分身ができた時に、自分のアーティスト人生はこの子に引き継がれるのかなと思いました。人それぞれ到達点は違うと思うけど、僕はアーティストとして、明らかに自分の中での到達点には達していない。それで、もしかしたら自分はここまでで、これからは子どもがやろうとすることを支援する側にまわるのかなと思いました。それを考えること自体は負けなんですよ。だからまずいな、この強迫観念を何とかしないといけないなと思いました。

それは子どもが生まれた直後に思ったのですか？

いえ、だんだん大きくなるにつれてです。子どもをアーティストにするつもりはないし、アーティストになりなさいとも言わないけれど、ひしひしと感じました。子どもも自然にカメラをいじったりして、撮ったものが面白かったりします。

お子さんがライバルになりつつある？

ライバルというか、敵視してしまう(笑)。敵視した時点で自分は負けていると思うのですが、子孫を残すというのはこういうことなのかな。

親を超えていけ、とは思いませんか？

全然思わない(笑)。僕もずっと走りつづけますもん。いつか追いつかれる時が来るかもしれませんが、でもそれは完全に僕の死の時です。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

第2波ぐらいの頃に僕も妻もコロナにかかりました。幸い子どもはかからなかったし、症状は軽かったのでよかったのですが、コロナというのは気を付けていてもかかると身をもって知りました。それから、コロナ禍で幼稚園が2週間ちょっと休園になりましたが、自分が会社員ではないので何とか耐えました。

それから、このアーティスト・ラン・スペースをつくったのが2019年で、ちょうどコロナが流行る頃だったので、計画を変更せざるを得ないこともありました。その間に法人を設立したり、市や企業の助成金を申請するなどして、それなりに活動できました。

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

子どもと一緒に夜9時から10時ぐらいに寝て夜中3時に起きるというのが、子育てにおける工夫でしょうかね。子どもが寝ている間に自分の時間を作っています。

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいいますか？

身近にはいないですね。子どもが何歳になったってことくらいは話しますよ。でも、みんな子どもを言い訳にしちゃダメだと思っているから、子どもがいて制作が進まないというようなことはあまり話さないです。

そのアーティストの方は男性ですか？女性ですか？

ああ、女性は確かに少ないかもしれないなあ。

16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。

☒ リサーチ ☒ 制作 ☒ 展示 ☒ ワークショップ ☒ アーティスト・イン・レジデンス ☒ その他

ここにある項目全部です。最近、遠方へのアーティスト・イン・レジデンスへ応募したのですが、もし審査に通ったら行くつもりでした。子どもを連れて行ってもいいし、例えば2か月間ずっとそこに滞在するわけではなく、お金はかかるけど、1週間に1回帰宅することもできますから。

応募する前に奥様に、受かったらこういうことになるけどいい？というような相談はされたのですか？

もちろん。まあ快くは承諾してもらってないと思いますが。

**17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？
特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。**

☐ 家族の協力 ☐ ひとりの時間 ☒ 収入 ☐ 美術に関する仕事への就労 ☐ 仲間の存在 ☒ その他

収入でなくてもお金は絶対です。あとは目標ですね。アートフェアに作品を出せるとか、アーティスト・イン・レジデンスに行けるとか、その都度チャレンジできる目標が必要です。

**18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、
子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。**

僕らはアーティストであることにプライドをもち、子育ては言い訳にしたくないなと思っています。でも、子育てしているアーティストは敬遠されがちです。もし手助けをしてくださるのでしたら、気を遣わないでほしいですね。子育てをしていないアーティストと同じ土俵にいるつもりだし、いつまでも若い人と同じようにガツガツしたい。平等に扱ってほしいですね。

男性アーティストでも子育て中は機会が減りますか？



たぶん男性もです。展覧会に呼ばれる機会が減るということを周りで見聞きしています。気のせいかもしれませんが、僻んでいるだけかもしれません。

ただアーティストっていうのは、何かしらの横のつながりがあって展覧会に呼ばれることが多いわけで、そのネットワークにいない人は、選ばれにくいと思います。だから子育て中だという情報は、プロフィールには出てなくても伝わっていると思うのですね。そうすると要らない配慮をしてくれますよ。だからアーティストは「子育てしてます」っていうことをあまり言わないんじゃないでしょうか。もしかしたらキュレーション側とアーティストが対等じゃないことが背景にあるのかもしれないですけど。こうやって子育て中のアーティストを面白がってもらう方がありがたいですよ。

19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？

ドイツなど、自分のことを誰も知らない海外に行って活動したいです。必ずしも映像と写真にこだわるつもりはありません。